

令和2年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和2年11月26日(木) 午後4時05分開会～午後5時05分閉会

2 場 所 南房総市役所本庁舎 2階第2会議室

3 出席者 市長 石井 裕
教育長 三幣 貞夫
教育長職務代理者 小宮 忠
委員 岡崎 俊明
委員 庄司 美佳
委員 石井 美智代

4 事務局 教育次長 内藤 一浩
参事 袴田 晃宏
教育総務課長 水島 孝夫
子ども教育課長 宇山 英裕
生涯学習課長 加藤 勉
教育総務課課長補佐兼総務係長 福原 正人

5 開 会 内藤教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

南房総市地域別の学力について

(自由討論)

石井市長 市の教育の課題について、皆様から幅広い視点で色々なご意見をいただければと思います。

私の基本的な考えといたしましては、南房総市で生まれ育った全ての子ども達に幸せになって欲しい。子ども達がそのための力を身に付けるために様々な視点からの対応をしていきたいと考えています。また、子ども達が幸せになるためにはどのような力が必要となるのかということで、教育の基本的な理念である学力の向上に取り組んでおりま

すが、学力の向上ばかりでなく、幅広い意味での教養やコミュニケーション能力、子どもの頃だからこそ体験できる様々な経験を積むことなど、色々な要素を身に付ける機会を全ての子ども達が社会的・経済的な要因に左右されることなく持つよう、今までもこれからも取り組んでいきたいと思えます。

本日の協議・調整事項は「南房総市地域別の学力について」ということをございます。今申し上げた基本的な考え方により、学力の向上に関しては市でもできることをいくつか実施しており、その中でも教育バウチャー（習い事支援）の現状がどのようになっているか報告を受けました。この教育バウチャーについては、経済的な事情等に左右されることなく全ての子ども達が学ぶ機会を持つことが出来るように実施しているところですが、利用状況のデータを見ますと、本来利用していただきたい家庭の利用率が低く、何か改善策がないかという思いがあります。各家庭での保護者の関心度の高低により子ども達の教育の機会や学力に差がでてしまうという現状があるように考えます。

課題としては、この制度の利用が全てという訳ではありませんが、このような制度を経済的に苦しい家庭の皆様に積極的に利用していただけるように考えていく必要があると共に、新たな対策として別の角度からの切り口などについて、教育委員の皆様のご意見があれば伺わせていただきたいと思います。

また、最近では教育相談センターに寄せられる相談件数が増えてきているということで、相談内容については育児や躰、不登校に関する相談が増えている状況のようです。教育相談センターの機能として、引き続き家庭のサポートが出来るように市として充実できればと考えております。

岡崎委員 本日の協議・調整事項に関する資料ですが、内容について説明していただけますか。

三幣教育長が配布資料の内容について説明。

小宮教育長職務代理者 最近、ヤングケアラーの問題が新聞に取り上げられており、子どもが不自由な家族の面倒を見ているという状況が他県の例でありましたが、南房総市ではそのようなケースの相談というのはございますか。

石井市長 その件に関しましては、数ヶ月前に報道等で取り上げられており、本市実態について心配であったため教育長に相談し、市内の状況を調べた結果、本市ではそのような実態はあまりないとのことでした。今後、このような問題について高校などを中心に調査をしていかなければならないのではないかと思いますし、そのような家庭があるのであれば、市としても支えていかなければならないと考えています。

小宮教育長職務代理者 若い方々が家族の面倒を見るために引き籠りになったり不登校になってしまっは深刻な問題ではないかと思えました。

三幣教育長 家族が心配で学校へ行けないなど、不登校の要因の一つとしてそのような問題もあるのではないかと思います。

岡崎委員 以前、不登校の子どもの生活環境や状況の一覧を見たときに、それぞれ違う状況であることがよく分かりました。その数が増えてきているというのは、家庭環境の悪化が増えてきているのか分かりませんが、難しいことであるとは思いますが問題が顕在化する前に、何とか学校や大人で大きな問題になる前に対応できないかと思えます。

今、コロナ禍においてリモートによる授業なども実施されていますが、やはり、教育というのは顔を合わせて子ども達の表情を読み取り、話をしながら進めていくものではないかと思えます。基本としては人と人のふれあいから始まってくるとは思えないかと思っています。

庄司委員 教育はふれあいが大事だというのはその通りだと思います。低学年や小さい子ども達ほどふれあいが大切なのに、コロナ禍によってその機会が閉ざされていたり、家庭内での問題など子ども達にも限界があるのではないかと心配です。

その反面、この機会に1人1台端末の整備などオンライン学習環境がどんどん進むことにより距離の格差が無くなっていくと思ったので、日本全国や全世界と繋がりを持つことができ、子ども達の可能性が広がるのではないかと思えます。その一つとしてベルギーとの中学生の交流が一部の生徒により行われていますが、オンラインを利用することにより、あらゆる家庭環境の子ども達も経験することが出来るようになるのではないかと。子ども達の意欲や視野の広がりという意味でもオンラインの活用は大きな意味があるのではないかと思えます。

コロナ禍で色々な大会などが中止となっていますが、子ども達が一生懸命に頑張ってきた活動の成果を発揮する機会が無くなったことによるストレスの発散など部活の仲間だけでなく学校の友人などともオンラインで繋がる事が出来るようになればと思います。

石井市長 教育現場でのICTの活用については、今年度国が予算的に交付金等計上し本市も助成を受けておりますので、市としてはこれらを活用しながら充実を図っているところ です。

ICTの活用に関しては、現場の先生方も色々な苦慮をされながら効果が上がるような活用の仕方について、現場で試行錯誤しながら取り組んでいかなければならないのではないかと思います。ICTの活用というのは一つのツールとして国の動向などを踏まえながらしっかりと実践していかなければならないと考えています。

石井委員 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究の資料について、非常によく分析されていると感じました。

市や学校が懸命に投げかけても家庭を巻き込まないことには難しいと思います。

ある家庭のお父さんが小学校1年生の子どもの宿題についてお話を聞かせてくれました。この家庭の様に子どもとコミュニケーションをとって親を巻き込んで取り組むことができないものかと考えました。

三幣教育長 国の教育再生実行会議に出席して議論をする中で違和感を持つことがあるのですが、「子供に基礎的なことは教えることはなくそれは昔の教育で、今は思考力で自由に考えさせた方が良い。」というような意見があったりしますが、本市の教育は違うと感じました。インターネットの利用について、市で6月頃に調査したところ4%ほどの家庭では必要としないという調査結果が出ました。このような意見の家庭がある中で4%の意見に囚われ過ぎても問題があると思います。今年度は行っていませんが、プログラミング学習など、全ての子ども達に同じようにという発想ではなく、全体的な力があり、やる気がある子ども達にはどんどんチャンスを与えていかなければならないのではないかと思います。その結果、色々な面で差がついてくるかもしれませんが、仕方がない事だと割り切らないと本来持っている力を発揮できない子ども達が出てきても問題があるのではないかとこの考えに多少なりつつあります。

教育相談センターに寄せられる相談件数が増えている要因の一つとしては、市が手厚く実施していることが周知され、転入してくる子どもが多くなってきたことが挙げられます。

岡崎委員 南房総市は教育行政に手厚いので、相談に乗って欲しいという家庭が多いということは、それだけ周知されているということだと思います。

三幣教育長 他市では特別支援学級となるところが、南房総市では支援員が配置されるので普通学級でいられるというような誤解もあるかもしれません。

岡崎委員 先ほどの4%というのは、インターネットの接続環境がない家庭ということで今後も環境を整える予定がないということでしょうか。

三幣教育長 その通りです。

岡崎委員 例えば、配付された端末を家庭に持ち帰らせて、家庭で宿題や課題に取り組ませようとしても、ネット環境が整っていない家庭では出来ないという事ですね。

放課後子どもクラブや近くの公民館・集会所など、Wi-Fiが整っている施設で時間を指定して活用していただくようなことは難しいのでしょうか。

三幣教育長 それも考えられる方法の一つだと思います。学習クラウドサービスのスタディサプリというものがありますが、これは単なる練習問題だけという訳ではなく、動画による授業のような事が行われており、学校で先生に習った事の復習などが出来るため理解が深まる。年度内には、このような先進的で高度なものをもっと活用できる状況に

なるが、どれだけの児童生徒が活用してくれるか、4%の児童生徒に囚われ過ぎて、より高度で広い範囲の勉強に取り組もうとしている子ども達のチャンスを潰してしまうことにも大きな問題があるのではないかという思いがあります。

庄司委員 4%の家庭の方々はバウチャー券も利用していないのでしょうか。

三幣教育長 恐らく利用していないと思われます。

岡崎委員 私の住んでいる地区で集会所を新しくする検討をしておりますが、どこの地区集会所もインターネットが出来る環境にはなっていないのではないかと思います。この機会にW i - F i の環境を整えれば、地元だけでなく周辺地区の皆さんも利用できてI C T事業にも利用できるのではないかと考えました。しかし、公民館ではなく地区集会所なので、市の管理ではなく地区で管理することになるということですね。

石井市長 集会所は各地区で管理していただくこととなります。

岡崎委員 家庭の社会経済的背景と教育格差について、家庭の社会経済的背景は学校の先生には伝えられていないと思いますが、この情報が少しでも学校の先生方が把握することができれば、先ほどの教育相談センターへの相談も含めて問題が大きくなる前の対応が出来るのではないかと考えました。

三幣教育長 職員から家庭訪問は大事だという意見がありました。家庭訪問をして、その家庭がどのような状況であるか情報を得ることが出来るということでした。

石井市長 家庭訪問はいつ頃から無くなったのですか。

三幣教育長 家庭訪問を行っている学校はまだあります。南房総市は他市町と比べても多い方だと思います。

岡崎委員 家庭の社会経済的背景が分からなくても、家庭訪問などで情報を得ることによって子ども達の状態を感じ取ってあげることが出来るのではないかと思います。

三幣教育長 資料にもありますが、教員になっている方々は親が大学卒業という場合が多く、自身も子どもの頃からの学びの環境を通じて教員になっている。教育相談センターへの相談内容の実態については十分に推し測れていない部分があると思います。子ども達の家庭の経済状況は様々であるため、部活動の遠征費用や揃いのジャージの調達費用の徴収など、教員自身の経済感覚で安易に行わないよう伝えているところです。

また、高校生のための塾をやる必要があるのかということ。他自治体では公営で塾を行っているところがある。

石井市長 公営の塾を開校しているということなのですか。

三幣教育長 そうです。

岡崎委員 高校生の面倒を教育委員会でみているというような事なのでしょうか。

三幣教育長 市町村や教育委員会でみているということです。先ほど岡崎委員が言ってい

た集会所などで高校生向けの塾を行っているとのこと。

庄司委員 大学進学を目標としているのですか。

三幣教育長 その通りです。

石井市長 難しいとは思いますが、財政的な問題がクリアできれば現在実施している教育バウチャーだけではなく、中学生高校生にまで広げていきたいという思いはあります。

今はICTの時代でもあるので、都市部であっても田舎であっても受けられる教育レベルや環境は大差がないのかもしれませんが、現実的には田舎では都市部に比べて教育の機会というのは劣る部分があると思いますので、市として少しでもカバーできるようにしたいという考えでいます。

岡崎委員 大半の子ども達が、高校を卒業すると地元を離れていくのですが、高校時代までの地域での楽しい思い出や世話になった事などを振り返り、南房総市は良かったと思ってもらえるようなになればと思います。そういう意味では高校生まで支援できれば良いなと考えます。

小宮教育長職務代理者 私は個性を大切にすることというを現役時代から言っており、教育界でもよく言われていることですが、なかなか具体的な姿として現れてこないという気がしています。高校や大学を卒業して職業を選択しようとした時に、学生や高校生が自分の持っているキャリアやエリアなどが非常に少ないし狭いのではないかと感じています。そのような事を考えると、学校教育の中で座って勉強する時間というものが多いと多く、指導要領の中でも新しいものがどんどん増える状況で、子ども達をもっと体を使って体験して色々なものに触れるという場面が必要なのではないかと思います。

私は漁師町出身なのですが、同級生が男50人いる中で20人が漁師になりました。当時その同級生は漁師に勉強は必要ないという考え方で、勉強以外のことに熱心でした。しかし、彼らは実際に社会に出て格差があることに気づき勉強をするようになりました。逆に、現役を離れた私は今、生活や自然について彼らに教えていただくことが多くあります。

基本的に困っている人などに手当をしている今の市の姿勢は間違っていないと思いますが、その上でもっと視野を広げるような体験できるような事を学校の中や地域で出来たら良いのではないかと思います。

石井市長 経済的に苦しい家庭の支援は引き続き実施していかなければならないと考えていますし、個性を伸ばすということについても教育現場では以前から言われ続けていることですが、先日、脳科学者の方の話を聞く機会があり、その話の中で保育園や幼稚園小学校の時期に様々な自然体験をすることが前頭葉を発達させるために非常に重要であ

るとの事でした。昔は自然体験は普段の生活のなかで自然と経験出来たものでしたが、今はそのような場を提供しないと経験できないというのが残念な状況ではあります。これからはそのような機会をもっと提供できるようにしていかなければならないと思いました。また、個性を伸ばすという点で、ハーバード大学では入試の際の合格基準は、社会に良い影響を及ぼす人間を育てるとというのが学生の採用基準とのことで、客観的な点数による判断基準がある訳ではないとの事です。平均点以上の子どもを育てることも大切だとは思いますが、子ども達の個性を伸ばすことも非常に大切だということでした。

三幣教育長 以前、安房地域の漁師町の学校で勤務をしていた際、とある高校に入れなければ次のレベル、それがダメなら次のレベル、それでもダメなら船に乗れば良いというような地域性であった。そのような考え方の環境で勉強をさせようとするのは非常に困難でした。そのような地域でこそ公的な支援が非常に重要であると思いました。

後日の園長・校長会議でも話をする予定ですが、南房総市だからこそ保育所・幼稚園からの意図的な教育が必要である旨伝えるつもりです。自然体験など小学校4年生位まではアナログ的な体験は多く取り入れた方が良いと考えます。

小宮教育長職務代理者 今日の新報に高校生がコラムを読んでいるという記事が掲載されていました。自分の高校生時代は新聞のコラムを読むということはしていませんでしたが素晴らしい事だと思いました。基本的な能力として紙に書いてある文字を読んでしっかりと理解し想像力を逞しくするということが大変重要なのではないかと改めて感じました。

8 閉 会 内藤教育次長が閉会を宣言